自宅のシェルター前に立つソマリア難民のお母さんと子ども

アシスト南スーダン！

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起こり、今どうなっているのか？ タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊（350円）購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!

世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました!
左のQRコードからアクセスしてみて!
http://www.peace-winds.org/m/

タウトクでは毎号、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額＝タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク7月号の販売部数

5,899部×3円＝17,697円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ®
タウトク
medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

「ケニア・ダダーブ難民キャンプの子どもたち」

こんにちは。私はピースウィンズ・ジャパン（PWJ）のケニア・ナイロビ事務所に勤務するFlorah Mghoi（フローラ・ムグホイ）です。今回は、私がケニアのダダーブ難民キャンプに出張した時に感じたことをお届けします。「大人になったら困った人を助ける仕事をしたい」。それが幼い頃からの夢でした。純粋で可愛らしい子どもが好きで、泣いている姿を見ると、どうしても放ってはおけません。二児の母親となった今、これまで以上に子どもたちの笑顔を見ていたい、という思いを強くしています。縁があってPWJで働くようになり、微力ながらも、長年思い描いた夢の実現に向けて努力しています。

6月12日から3日間、PWJの活動地の一つ、ケニア東部のダダーブ難民キャンプに出張しました。このキャンプは25年前に開設されましたが、今なお隣国ソマリアからの難民たちが約25万人暮らしています。ここでも、真っ先に子どもたちのことが気になりました。出張前、キャンプには空腹を我慢している子なんていないと思っていましたが、現実は違いました。子どもたちは痩せ細り、食料支援の必要性が差し迫っていると感じました。ダダーブの大地は乾燥しているため、野菜や果物などを育てることができません。難民たちは支援団体に頼るしか、生きのびる道がないという状況を実感しました。水も十分ではありません。私が生活する場所はきれいな水が豊富に流れ、川の水をそのまま口にできますが、難民たちは井戸からくみ上げた水を飲むしかありません。

しかし過酷な状況下でも、子どものために必死に頑張るお母さんたちの姿がありました。例えば、小さなお店を開き、日用品などを大量に仕入れ、袋に小分けにして売る。まとめ買いできれば、購入希望者が出てきます。そうやって工夫しながら、子どもたちを養っているのでした。

子どもたちはみな、自分の境遇を選んで生まれてくることはできません。私自身の2人の子も、皆さんのお子さんたちも、そして難民の子どもたちも。だからこそ、大人には子どもを守る責任があると思っています。ダダーブキャンプの子どもたちを目の当たりにして、それをより痛感しました。私と2人の子どもがいかに恵まれた環境で生活しているのかも。たとえ一度しか手を差しのべられなかったとしても、子どもたちにとってより良い世界に一歩でも近づけるよう、必要な支援を届けていきたいと思います。

ナイロビ事務所 Florah Mghoi（フローラ・ムグホイ）

難民キャンプと子どもたち

壊れたシェルターにたたずむ子どもたち

＊本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。